

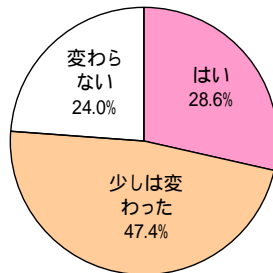
## (2) さらなる成果志向の行政システムへの転換

### 《ポイント》

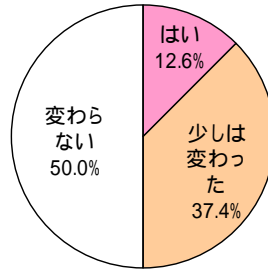
- ・ 成果志向の考え方、マネジメントサイクルの概念の理解を促進させ、地域の出先事務所に至るまで道路行政マネジメントの定着を図ることによって、より効果的・効率的な行政システムへ転換する。
- ・ 特に、事業進捗管理とコスト縮減は重点課題と位置づけ、取組みを強化。このため、新たな指標として「道路事業の総合コスト縮減率」を追加する。

- ・ これまで、道路行政マネジメントをより具体的に進める上で、地方においてどのような施策・事業をとれば良いかなど、行政判断の参考となる好事例をまとめた「道路行政マネジメントガイドンス」を策定し、現場における実践の取組みを広げていくこととしていた。
- ・ また、地域において地域ニーズを踏まえた平成15年度達成度報告書・平成16年度業績計画書が策定・公表された。
- ・ しかしながら、地方機関の職員一人一人にまで、成果志向の考え方が十分浸透していない状況となっている。

問1 計画的に業務を遂行するようになったか？



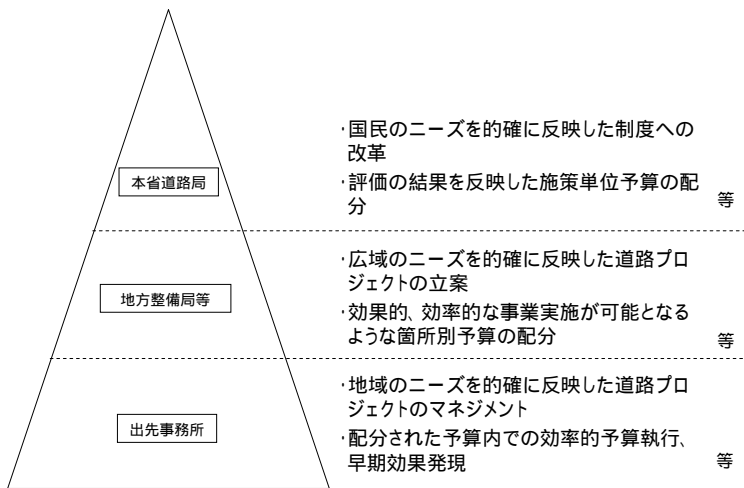
問2 業務の効率化につながっているか？



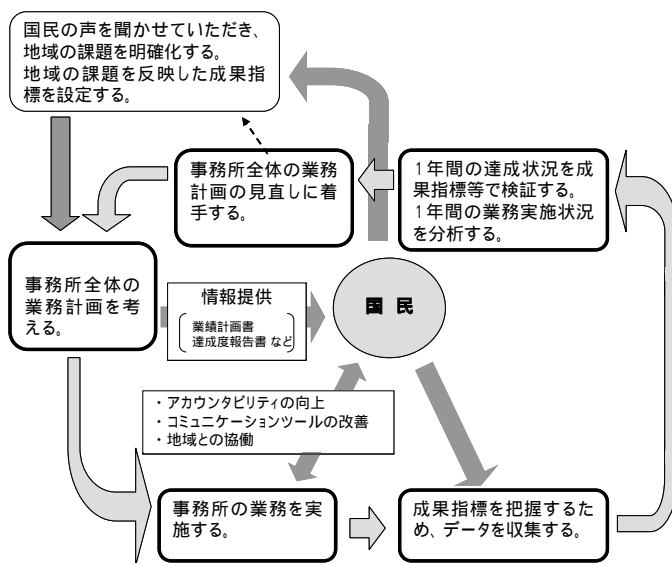
平成16年度に東北地方整備局等の職員に道路行政マネジメントの取組みについてアンケート調査を行った。その結果、職員の意識に変化が見られたものの、実際の業務には十分反映されていない。

図7 意識の変化と業務への反映状況

- ・ 平成17年度においては、より効果的・効率的な行政システムの構築を目指し、本省から出先事務所まで各機関が各々の役割分担及び取組むべき課題を明確にした上で、道路行政マネジメントの定着を図る。特に、出先事務所においては、地域の課題を反映した成果指標を設定し、年間を通じたマネジメントサイクルを実施する。
- ・ また、道路関係四公団が民営化後に設立される7つの民間会社においても、道路行政を担う一員として、国土交通省と連携を図りつつ、道路行政マネジメントを実施する。



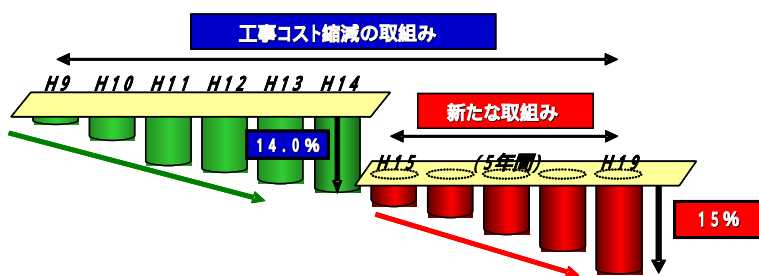
道路行政マネジメントにおいて、各主体が果たす役割のイメージ



出先事務所における道路行政マネジメントサイクルの実施イメージ

図8 地域における道路行政マネジメントの浸透と定着のイメージ(上:役割、下:マネジメントサイクル)

・ 特に、事業進捗管理については、事業の迅速化、重点化及び透明性の確保を図るため、直轄事業の主要事業について、供用時期の目標、進捗状況を公表するとともに、関係機関との調整の迅速化及び土地収用の手続きの積極的な活用を図る。また、コスト縮減については、指標を設定し、規格の見直しによる工事コストの低減や将来の維持管理費の縮減等を推進する。



道路整備事業の工事コストは、平成14年度には平成8年度比14.0%縮減。平成15年度からは、平成14年度までの取組みに加え、公共工事のすべてのプロセスを見直す新たな取組みである「コスト構造改革」に着手。

図9 コスト縮減の取組み

### (3) データ収集分析手法の改善による、より効率的な道路行政への転換

#### 《ポイント》

- ・ 指標について、より精度の高いデータを最新の技術を活用して効率的に収集・分析することによって、より効率的な道路行政に転換する。
- ・ 合理的な成果目標を決定し、その成果を客観的に評価するためには、正確でコスト意識を持ったデータ収集が必要である。
- ・ このため今後とも、道路状況の把握に「プローブカー」を活用するなど、さらに効率的なデータの収集体制を確立するとともに、その分析に関し、地域の特性を踏まえた手法へと改善を進める。

- ・ 累積渋滞損失時間の上位 6 割の区間を新モニタリング区間として再設定したことにより、これらの区間の動向から渋滞損失時間の全国値の算出が可能となった。
- ・ ただし、新モニタリング区間への変更に伴い旅行速度の測定方法を変更したところ、一部で渋滞損失時間の増加が見られたことから、算出手法の精度向上が課題である。

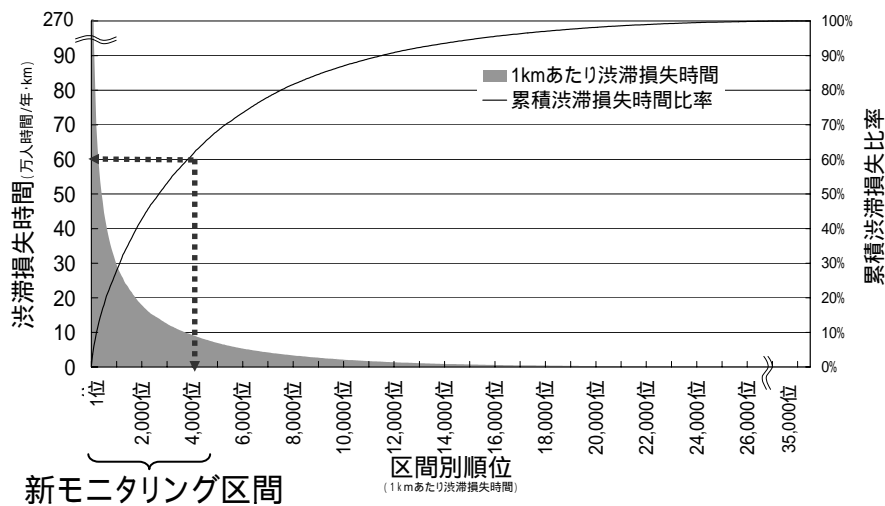


図 10 新モニタリング区間の設定

- 平成 17 年度は、精度の高いデータが取得できていない直轄管理区間以外についてもデータ取得の高度化に努める。具体的には、プローブカーの効率的な運行によりデータ取得区間の拡大やデータ精度の向上を図るとともに、各種統計データの活用など高精度な情報を用いて渋滞状況を分析し、よりの確で効果的な渋滞対策の実施に努める。

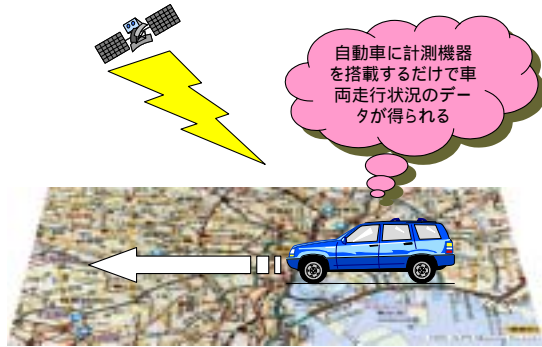
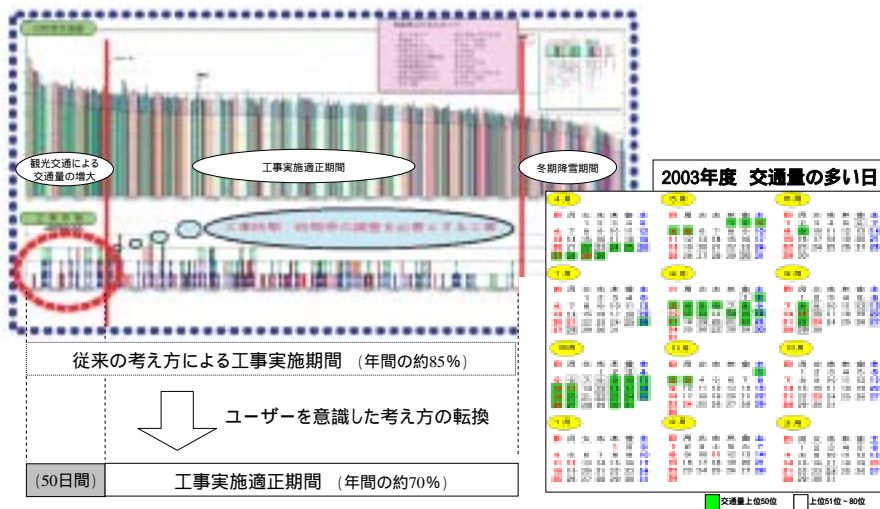


図11 各種機械計測データの活用拡大

- 地域の特性を踏まえたデータの収集、分析手法を改善し、各地域の実情やニーズを踏まえた取り組みを進める。



地域の祭りの時期等の渋滞を減少させるため、昼間 12 時間交通量が多い日をカレンダーにプロットし、その時期を除いた期間に路上工事を実施した。この結果、年間交通量上位 50 日における路上工事を約 6,000 時間縮減。

図12 地域の特性を踏まえたデータの収集と分析（秋田カレンダー方式）